抗議声明

高市首相は直ちに「非核三原則」堅持を明言すべき

２０２５年１２月１９日
核戦争に反対する医師の会（反核医師の会）
代表世話人会

　昨日、首相官邸の幹部が、個人見解としつつも「日本は核兵器を保有すべきだ」と報道陣に対して見解を表明したと、各紙で報道された。この官邸幹部は、高市早苗首相に対し安全保障政策などについて意見具申をする立場にあると報じられている。

　被爆８０年にあたり一刻も早く核兵器を廃絶してほしいという被爆者の祈りにも似た声を無視し、唯一の戦争被爆国である日本の政権中枢からこうした発言が漏れてくること自体に憤りを禁じ得ない。

　私たちは、国民の生命と健康を守る医師・歯科医師として、最も強い言葉で怒りを込めて抗議する。

　この間、高市首相は、これまでの日本政府の見解を無視して「台湾有事は存立危機事態にあたる」と答弁し、日中関係にも大きな緊張を生じる事態となった。それに加えて、日本の政権幹部が「核保有」の考えを示すことは、日中のみならずアジア諸国にも多大な影響を及ぼすことは明白である。

　高市首相は、首相就任以前から、アメリカの拡大核抑止力に依存するのであれば、日本への核持ち込みを見直すべきであると主張し、さらに首相就任後も、これまで安保関連３文書の改定の際に「非核三原則の堅持」の文言を引き継ぐかを国会で問われた際にも、「私から申し上げる段階ではない」と明言を避けてきた。

　非核三原則は、戦後一貫して歴代政権が堅持してきた国是である。核戦争の惨禍を再び繰り返さないためにも核兵器廃絶を一刻も早く実現することが求められている。

　高市首相は、「非核三原則」を引き続き堅持することを日本と世界に向けて明示すべきである。